

令和三年、松本蟻ヶ崎高等学校は創立百二十周年を迎えました。実行委員会を代表し、また同窓会長としてご挨拶を申し上げます。

当初この式典は音楽文化ホールにおいて ご来賓、保護者・同窓生、そして生徒の皆さんをお招きして行う計画で進めて参りました。しかし、ご案内をお送りする頃に新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されたため、安全を第一に考えて 同窓会ホームページを通じて配信するかたちに変更することに致しました。皆さまとご一緒に晴れやかにお祝いしたいと考えていましたので残念な思いもありますが、どんな形にせよ 無事にお祝いができますのは、多くの方々のご協力のおかげと感謝いたしております。

さて母校は 明治三十四年に松本高等女学校として設立されました。三年後には日露戦争が始まっており、時代背景を考えると感慨深いものがあります。そうして歩みだした母校は 第二次世界大戦後の学制改革で 女子高等学校となり、蟻高らしさを培いながら 昭和五十年には男女共学、と幾多の変遷を経て今日に至っております。男子生徒一期生の皆さんも数年前に還暦を迎えられ、時の流れを感じるところです。創立からの卒業生は三万八千名をこえ、地元はもとより県内

外の各方面で広く活躍しておられます。

今回、百二十周年事業を行うにあたりテーマを「蟻高の絆を胸に 新たな気持ちで 輝く未来にはばたこう！」としました。思いもよらないコロナ禍で 例年とはまったく違う高校生活を送ることになってしまった在校生の皆さんには、百二十周年のお祝いをしたことが 心のどこかに残るように、また卒業した方たちには もう一度、同窓というつながりを思い起こしていただき 交流を深めるきっかけとなるように、という思いを込めました。

在校生の皆さんによる参加の一環として、記念公演を書道部・ダンス部・吹奏楽部に、十年間を振り返るDVD制作や映像配信の準備を放送部に、記念品のトートバッグのデザインを写真部・美術部・書道部にお願いしました。部活動自体が制限されることもある中で みんなが一丸となって精一杯努力した成果の集積が 今回の事業となっています。

また、卒業生のつながりという面では 記念誌作成の過程で新たな発見や喜びがありました。一番嬉しく思えたのは、ここ十年の生徒会長に寄稿いただいた文章を読んだときです。しっかりと自分の考えを持ち、その置かれた場所・立場で輝いていること、未来に向けた強い気持ち・意志をもって

いること。その生き方は蟻高で培われたものではないでしょう。母校に脈々と流れている自主自立、文武両道を根底においた蟻高らしさと思います。私は高校時代、先輩達の毅然とした姿に憧れました。今は、後輩たちの姿を頼もしく微笑ましく、温かな気持ちで応援しています。

最後に、こうして百二十周年を迎えることができましたのは、母校関係者の皆さま、同窓生の皆さまはもとより、近隣の皆さまのご理解・ご協力があったることと深く感謝申し上げます。そして、引き続き温かく見守っていただきませうようお願い申し上げます。また、母校におかれましては新たな十年に向けての一步を踏み出し、伝統・校風を大切に更なる発展をされますようご祈念申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

令和三年十月十六日

松本蟻ヶ崎高等学校創立百二十周年記念事業実行委員長

松本蟻ヶ崎高等学校同窓会長

和合 直子